わたしのまちづくり

「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？
ここでは、主体的に活動している市民を情報課職員が取材して紹介します。

草掛防犯ガード隊

顧問 高木 昇攻 さん　　隊長 川本 壽 さん

今回は、地域の子どもたちの登下校の見守りや防犯パトロールなどについて取り組む、草掛防犯ガード隊さんにお話を伺いました。

情報課職員（以下「情」）：今日はよろしくお願いします。早速ですが、草掛防犯ガード隊について教えてください。

草掛防犯ガード隊（以下「ガード隊」）：草掛防犯ガード隊は、草掛地域を中心に、毎日の子どもたちの登下校の見守りや防犯パトロール等について取り組む市民団体です。2011年にまちの交通安全と防犯活動を願う地元有志で設立し、今年で設立10周年を迎えました。現在は災害時における地域住民の安否確認の訓練を行うなど、防災活動も積極的に行い、安心・安全なまちの実現に向け日々活動しています。

子どものために

情：設立10周年おめでとうございます。10年間毎日欠かさずに子どもたちの見守り活動などをされるなんて、とても大変なことだと思いますが、なぜそれほどまでに熱心に取り組まれるのでしょうか。

ガード隊：私がまだ企業に勤めていた頃、当時小学生だった私の子どもの同級生が、↙登校中に横断歩道を横断していたのですが、その時に自動車との事故に遭ったんです。その子は短い人生となりました。今でも当時の事を鮮明に覚えていますが、同じ子をもつ親として、とても悲しい事故でした。その後、まちの人口が増え、まちには子どもたちも増えたのですが、愛知万博もあり自動車の交通量が増えていたので、二度とあのような事故を起こしてはならないと思い、地元有志とともに設立しました。

情：そのような悲しい体験が今の活動につながっているのですね。

ガード隊：まだ生まれて10年程度の経験しかない子どもたちが、自動車が多く走っているまちの中で毎日登下校をしています。大人はそうした子どもたちをきちんと守ってあげないといけない。地域の大人が日頃から子どもたちの安全を意識しておかないといけないと思います。また、最近は車に限らず、自転車も多く走っています。以前、ヘルメット未着用で左側走行を守っていない自転車が、子どものそばを猛スピードで走行し、子どもたちが怖い思いをしていた場面がありました。自転車側もヘルメット未着用だったので、もし事故になっていたらお互いどうなっていたかと思うと心配でなりません。自動車に限らず、自転車でも大きな事故になる危険性があることを、さらに周知徹底したいですね。

危ないことはしない

情：それでは、最後に市民のみなさんにメッセージをお願いします。

ガード隊：事故に遭うことは、とても悲しいことです。それを防ぐためにも、大人がきちんと子どもたちに危ないことを教える必要があります。そのためには、大人が子どもたちの手本にならないといけない。ただ、残念なことに、先ほど言ったような自転車の走行や、歩きながらスマホを触る、しゃべりながら歩道いっぱいに広がって歩く、中にはスマホを触りながら自転車に乗るなど、危険な行動をしている大人をよく見かけます。そうした行動を見ている子どもたちに、いくら大人が注意をしてもきっと納得しないでしょう。子どもたちに納得してもらうには、まずは大人が手本となり、危ないことをしないようにしないといけないんです。子どもたちは大人の行動をしっかり見ています。危ないことを大人がしないように気をつけることで、子どもたちも危ないことだと認識し、気をつけるようになる。そうすることで、子どもたちはもちろん、大人も安心して過ごせるまち、住みよいまちにつながると思うんです。「危ないことはしない」このことを気にするだけでも、立派なまちづくりなんです。

自主防犯ボランティア募集中

安心安全なまちの実現には、みなさんの力が必要です。自主防犯組織を立ち上げたい人は、安心安全課（☎56-0611）へ相談ください。

Weeklyながくてはこちら →
「Weeklyながくて」でも草掛防犯ガード隊の活動の様子を取材しています。